

<b>〔科目名〕</b> 美と価値	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b>
<b>〔担当者〕</b> 皆川俊平 Minagawa Shumpei 宇野あずさ Uno Azusa	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 授業終了後 <b>場所:</b> 授業実施教室 または メ担当教員へメール	<b>〔授業の方法〕</b> 講義・演習
<b>〔科目の概要〕</b> 本講義では、美術およびデザインに関する歴史を概観しながら、今日の生活・文化における美的感覚との関係性について各教員の専門領域に応じて講義を行います。講義では美の範囲を美術作品に限らず、美的なモノ・コトまで幅広く解釈しています。キーワードは、色彩、写真、アートプロジェクト、地域デザインなどです。 実務経験から得た知識や技能をもとに、最新の現状や現場での実体験をもとに授業を実施することで、現代社会における美と価値の在り方について考えていきます。		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> 美術は、太古の文明の発達以前から今日まで人類が続いてきたもののひとつです。その理由は、美術は非言語かつ文字に依存しない『伝達手法』であり、美術史の変遷はひとえに『人々のコミュニケーションの在り方の変遷』でもありません。私たちの身の回りには、美術史が息づいているのですが、多くの人はそれをあまり意識しません。それは、知識・教養としての美術史と、生活・文化における美的感覚が断絶しているからです。 本講義では、知識・教養としての美術やデザインの概要を押さえつつ、今日の生活や文化における美的感覚との関係性を明らかにしていきます。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> 1. 美術領域のモノ・コトに関する概念的知識を得る。 2. 美術作品の歴史的な発展や社会的影響について理解する。 3. 美術作品を歴史学や考古学など他の領域の視点から考察することで、論理的思考を養う。 4. 講義内容をノートにまとめることで、美術領域について言語表現できる。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 昨年度の授業評価において、授業スケジュールの変更や授業の質問等に関する連絡の要望があった。そのため、学生に配慮した伝達方法について検討する。 また演習内容に関して、準備事項の周知を徹底することとする。		
<b>〔教科書〕</b> 使用しない		
<b>〔指定図書〕</b> 特になし		
<b>〔参考書〕</b> 特になし		
<b>〔前提科目〕</b> 特になし		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> 成績については以下の方法・割合により100点満点に換算し評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各授業回の講義後に実施されるレポート(20%)</li> <li>・演習課題(30%)</li> <li>・期末レポート(50%)</li> </ul>		

<p>A 80点以上  B 80点未満～70点以上  C 70点未満～60点以上  D 60点未満～50点以上  F 50点未満</p>	
<p><b>【評価の基準及びスケール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートについては指定された文字数を考慮し、講義を踏まえた論旨の独自性、明解な文章構成力を評価する。</li> <li>・演習課題については、実習・実技等に該当する技術の巧拙は求めず、下記を評価する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 主体的な発案、コミュニケーション</li> <li>2) 考えを他者に伝えるための創意工夫</li> <li>3) 適切な伝達手法の選択・判断</li> </ol> </li> </ul>	
<p><b>【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】</b></p> <p>本授業は、各学部・学科の主たる学びとは異なるものとなるが、それらの見識を広げる、または深めることを目的として実施するものである。そのため、学生各自の専門性に基づいた、主体的な考えを持ち授業へ取り組むことを望む。</p>	
<p><b>【実務経歴】</b></p> <p>両教員とも、デザインに関する高等教育機関での講義・実習等の指導経験、実務経験を有し、また美術家としての活動経験を有する。これら実務経験に基づいた講義・演習を行う。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):地域社会×美術</p> <p>内 容:  美術やデザインによる思考法やマネジメント(人・もの・情報をつなぐ手法)は、まちづくりや地域おこしなどに応用しています。初回はガイダンスを含め、担当教員がこれまで実践したアートプロジェクトやデザインプロジェクトを紹介しながら、今日における美的感覚の展開について解説します。  教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):写真史-複製による記録/記憶-【演習】</p> <p>内 容:  視覚的情報を伝達する写真は、現代社会において欠かすことのできない重要な役割を担っています。写真史の概観し、ポートフォリオ作成やカメラ・オブ・スクラの制作などの演習を交えながら、写真がもつ記録性や複製技術によって変化した記憶について解説します。  教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):色彩学【演習】</p> <p>内 容:  ポスターやパンフレット、ファッション、インテリア、建物、景観や自然。わたしたちの身の回りには様々な色があり、色彩は様々な表現に欠かせません。色彩について基本的な知識、配色による心理的効果など色の持つ性質について配色テクニックによる演習を交えながら、解説します。  教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):描くことと書くことについて</p> <p>内 容:  美術を初めとした芸術に関する行為は、近代以降「個人の考えや意思の発露」となっています。すなわち意見やアイデアを自己から他者へと伝達するコミュニケーションまたは自己の内から外へのアウトプットとなります。そのうえで、コミュニケーションとアウトプットの手法である描くことと書くことの違いについて考えながら、美術制作を行う意味や意図を探っていきます。  教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):場所の声を聴く</p> <p>内 容:  美術制作を行う際に、いったい何からインスピレーションを得るのでしょうか。自己の内面から発現するものもあれば、外的要因の影響を受けることもあります。この外的要因として、日常を改めて見直し、「場所」や「土地」への意識的な働きかけを行う作品や制作手法を解説します。</p>

	教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):物を見る、事を見つめる</p> <p>内 容: インスピレーションの源泉としてのインプットを、今度は物や事に対象を変えて考察します。事物を見つめる目は、単純に「見る」という行為だけでなく、見えないものを類推するための深い観察・洞察も重要です。目に見える事柄から、見えない関係性を見出すまでの思考プロセスを解説します。</p> <p>教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):話すことと放すことについて【演習】</p> <p>内 容: よく、コミュニケーションを「言葉のキャッチボール」と例えることがありますが、美術は何らかの情報を伝達する行為と見なすこともでき、芸術の鑑賞は作品や体験を通じた、作者と鑑賞者との共創的な創造行為です。これを踏まえ、視覚表現や身体表現のさまざまな在り方を解説し、また、簡易な演劇手法による【演習】を通じ、共創的な体験を創造します。</p> <p>教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):テーマ、コンセプト、モチーフ【演習】</p> <p>内 容: 前週の【演習】の発表を引き続き行います。 美術作品の鑑賞や制作では、テーマとコンセプト、またモチーフなどの用語がしばしば混同されていることがあります。これら用語の適切な意図を把握することで、鑑賞や制作の筋道を明確にしていきます。</p> <p>教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):文化の引用と盗用</p> <p>内 容: 様々な民族に固有の文化があり、そのような文化は他の文化、とりわけ今日の美術やデザインに大きな影響を与えてきました。美術史的観点から文化と美術の相互作用を解説しつつ、今日問題となっている文化の盗用を、美術だけでなく音楽なども含めた芸術全般と社会との関係から考察していきます。</p> <p>教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):祭りと祀り / 境界における美の考察①</p> <p>内 容: 民族と文化、すなわち民俗学的視点から、今日の美術の状況を概説します。特に「地域」を舞台としたさまざまな取り組みを、美術史を拡張し民俗と生活史の観点から考察していきます。</p> <p>教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):美術におけるジェンダー/ 境界における美の考察②</p> <p>内 容: 美術・芸術への学びを深めると、その根底には支配と隷属、またマジョリティとマイノリティといった、近代以降に顕著となった社会的課題が、今日も未だに解決せず横たわっていることに気づきます。とりわけ、政治的背景や民族、そしてジェンダーといった課題が明らかとなりますが、これらが「美」として昇華され社会への問題提起に変わっていく過程を、聖と俗の境界の反転性から考察していきます。</p> <p>教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):歴史的価値・文化的価値としての美術</p> <p>内 容: これまでの講義を踏まえ、歴史的価値と文化的価値の双方から、美術が社会にもたらす価値を解説・考察します。</p> <p>教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済的価値としての美術 / 美術市場</p> <p>内 容: これまでの講義の一方で、現代の美術には商業的な価値もあります。今日の美術市場を概説しつつ、多面的な美術の価値について理解を深めていきます。</p> <p>教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。</p>

第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):美を図る(測る)ための価値とは何か①</p> <p>内 容:          これまでの講義を踏まえ、「正解」の無い問いである『美』に対し、受講者それぞれの「価値」を定めていきます。講義全体のリフレクションを主体に、受講者相互の知識や経験を共有するコミュニケーションとしてのワークショップを行います。          教科書・指定図書なし。適宜資料を配布します。</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):美を図る(測る)ための価値とは何か②</p> <p>内 容:          これまでの講義を踏まえ、「正解」の無い問いである『美』に対し、受講者それぞれの「価値」を定めていきます。講義全体のリフレクションを主体に、受講者相互の知識や経験を共有するコミュニケーションとしてのワークショップを行います。          教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。</p>
試験	<p>試験は行わず、期末レポートとする。</p>